

2021年3月期 第3四半期決算の発表について

昭和産業株式会社(社長:新妻一彦)の2021年3月期第3四半期連結決算は、売上高190,580百万円、経常利益8,201百万円となりました。2021年3月期連結業績予想については、売上高2,540億円、経常利益85億円を見込んでおります。

【2021年3月期第3四半期連結決算】

当第3四半期連結累計期間の我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により、経済・社会活動が制限され、極めて厳しい状況が続きましたが、夏頃にはウィズコロナに対応した生活様式が定着し、経済・社会活動にも持ち直しの動きが見られておりました。しかし、冬場に入って国内の感染者数が急激に増加しており、いまだ感染収束の見通しは立っておらず、依然として厳しい状況が続いております。

さらに、原料穀物におきましても、中国の堅調な需要や米国、南米の天候不順による減産観測から国際相場は上昇を続けており、市場は価格高騰を危惧する状況となっております。

このような状況の中、当社90周年を迎える2025年度のありたい姿(長期ビジョン)「SHOWA Next Stage for 2025」の実現に向け、2nd Stage「中期経営計画20-22」を昨年4月にスタートいたしました。5つの基本戦略「①盤事業の強化」「②事業領域の拡大」「③社会的課題解決への貢献」「④プラットフォームの再構築」「⑤ステークホルダーエンゲージメントの強化」の各種施策の推進に努めてまいります。

当第3四半期連結累計期間では、「①基盤事業の強化」の施策については、糖質事業において国内での安定供給体制を一層強固なものとし、更なる生産性向上を図ることを目的に、サンエイ糖化株式会社を完全子会社化いたしました。両社の販売チャネルや原料調達力、技術力、研究開発力、マーケティング機能等を融合することで、新たな価値の創出を実現してまいります。

「②事業領域の拡大」の施策については、台湾大成集団のグループ会社である「國成麵粉股份有限公司」および「中一食品股份有限公司」が実施する第三者割当増資による株式を引き受け、台湾において新たに「製粉事業」「飼料事業(鶏卵)」に参入いたしました。両社は当社の持分法適用会社となりました。

さらに、当社グループが取り扱う油種の品揃えの拡大を目的に、米油を取り扱うポーソー油脂株式会社を完全子会社化いたしました。両社の持つ経営資源や知見を相互に活用し、製造体制の統合や両社の商材と販路の活用等を行うことにより、両社における事業のシナジーを最大化させてまいります。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、連結売上高が 190,580 百万円と前年同期に比べ 2,572 百万円(1.3%)の減収となりました。営業利益は 6,967 百万円と前年同期に比べ 818 百万円(10.5%)の減益、経常利益は 8,201 百万円と前年同期に比べ 793 百万円(8.8%)の減益、親会社株主に帰属する四半期純利益は 9,129 百万円と前年同期に比べ 2,216 百万円(32.1%)の増益となりました。

【2021年3月期連結業績予想】

2021年3月期の連結業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症再拡大の状況、為替や穀物の相場動向など、当社グループを取り巻く経営環境は不透明な状況が続くものと予想されますが、2020年11月16日に公表した連結業績予想からの変更はございません。

以 上

<本件に関する報道関係の方のお問い合わせ先>

昭和産業株式会社 経営企画部 コーポレート・コミュニケーション室 担当:赤松
TEL:03-3257-2042